

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな人間性と創造力を持ち、自主的精神に満ち、心身共にたくましく、実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標（目指す児童像）

- ・明るく元気できたえる子（鍛える）
- ・おちついてよく考える子（考える）
- ・みんな仲よくきまりを守る子（思いやる）
- ・ねばり強くやりとげる子（実行する）

※平央小の合言葉 「みんな 明るく なかよく 元気よく がんばるぞ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくり」

小規模校ならではの、児童一人一人へのきめ細かな対応を基盤に児童が生き生きと自分らしさを発揮できる安心・安全な学校、家庭や地域からの信頼をもとにした地域とともにある学校、教職員が専門性を生かし自分の力を十分に発揮できる学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「小学校学習指導要領」「栃木県教育振興基本計画 2025」「第2次宇都宮市学校教育推進計画 後期計画」等に基づき、児童の実態を踏まえるとともに、家庭や地域との協働を進めるなど特色ある教育活動を推進する。

- (1) 児童が安心して楽しく通える学校づくりを進めるため、互いのよさを認め励まし合う雰囲気醸成するなど、全ての教育活動における個に応じた支援の充実を図るとともに、安全な学校づくりに努める。
- (2) 明るく元気できたえる子の育成に向け、体力の向上と望ましい食習慣の形成、そして安全教育の充実に努める。
- (3) おちついてよく考える子の育成に向け、児童の学ぶ意欲の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の充実に努める。
- (4) みんな仲良くきまりを守る子の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導の充実と、豊かな人間関係を築く教育活動推進に努める。
- (5) ねばり強くやりとげる子の育成に向け、児童の自己肯定感を育むとともに、成功体験を繰り返せる環境づくりを推進し、未来を生き抜く力の醸成に努める。
- (6) 家庭・地域・関係機関と連携、協働を推進し、社会に開かれた教育課程の視点から、地域の教育力を生かした地域とともにある学校づくりに努める。
- (7) 教職員が高い使命感や、やりがいをもって勤務し、質の高い教育教職員が高い使命感や、やりがいをもって勤務し、質の高い教育を行うため、業務の効率化を行うため、業務の効率化を図るとともに、勤務時間の適正化に努める。
- (8) ○鬼怒地域学校園の教育ビジョンを達成するため、地区内小中学校との情報共有、及び共通実鬼怒地域学校園の教育ビジョンを達成するため、地区内小中学校との情報共有、及び共通実践を通して、小中連携の一層の充実に努める。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、並びに小学校学習指導要領、県や市教育委員会の指導方針、学校経営方針等に基づき、児童や地域の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」を編成する。
- (2) 体験活動を重視した特色ある教育活動を実践するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教科横断的な学習及び探究的な学習の充実を図るなど、児童の知・徳・体バランスの取れた「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- (3) 鬼怒地域学校園の各校との連携を図り、小中一貫教育の趣旨を踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営
児童が行きたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい学校づくりを推進するため、学校の組織力を高めるとともに、家庭や地域との連携・協働による特色ある教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進する。
○ 児童が安心して通える、魅力あふれる 安全な学校づくり
○ 児童の学力向上を目指す学校づくり
○ 児童の自己肯定感を育成する学校づくり
・ 創立 150 周年記念事業に向け、家庭や地域と連携・協働体制の構築 を図る学校づくり
・ 業務 の効率化と勤務時間の適 正化 等 を図るための風通しの良い職場環境づくり
(2) 学習指導
○ 基礎学力の定着を図る授業展開
— 朝の学習や家庭学習を活用した学習習慣の形成 —
(3) 児童生徒指導
○ 夢に向かって、粘り強く取り組む児童の育成
— 家庭と連携し、児童の自己肯定感を育む取組の推進 —
(4) 健康（体力・保健・食・安全）
○ 自らの心身の健康に関心を持ち、進んで健康・安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・ねらいを明確にした上で、探究的な学習や体験活動を通じ、他者と協働しながら学習に取り組むよう指導する。 ・IT や習熟度別指導により、分かる授業を展開し、児童の学習意欲を高め、進んで学習に取り組む態度を育てる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.2%で、指標の 85%を上回った。児童は、授業に熱心に取り組んでいる。 【次年度の方針】 ・引き続き、分かる授業を展開したり、多様な学習活動を取り入れたりすることにより、児童の学習意欲を高めていく。
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・道徳科の授業において、考え、議論する展開を図る。 ・ファミリー班活動や学校行事等における異年齢児童との活動の機会の設定、地域の大人との交流などにより、学年・学校を超えた人とのかわりを深める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 96.1%で、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・引き続き議論を行い、考えを広げたり、深めたりする道徳の授業を行う。 ・ファミリー班を中心とした異年齢交流活動を引き続き行う。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・水泳検定、なわとび検定等の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努める。 ・「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童の努力や良さを認め励ます教育を推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.1%で指標の 85%を上回った。水泳検定や縄跳び検定、運動会の取組などで意欲的に活動する児童が見られた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、児童一人一人の良さを見取り、伝えていくようにする。

1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童、教職員、保護者の肯定的回答 85%以上	・定期健康診断や避難訓練、交通安全教室等を計画的に実施するとともに、体験活動を通した指導を行う。 ・各種便りを定期的に発行し、HP等を活用して保護者への啓発を図る。 ・歯みがき指導やフッ化物洗口など歯と口の健康づくりに取り組み、習慣化を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 98.0%，保護者 85.7%，教職員 100%でそれぞれの指標の 85%を上回った。 ・児童は、健康診断や避難訓練に熱心に取り組んでいた。また、教職員はそれらの必要性を伝え、児童が健康や安全に興味・関心を持って生活できるよう指導していた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・特別活動やキャリア教育等を通して自分のよさを知り、夢や目標をもって努力し自らの成長を実感できる教育活動に取り組む。 ・一人一人の特徴を生かす活動を工夫したり、帰りの会等で一人一人のよさを認める場面を設けたりして、自己理解やよりよい人間関係づくりを促進し、友だちと協力して働こうとする態度を育む。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.2%，教職員の肯定的回答は 100%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・学習活動や行事の中で振り返りを行う際に、自分の成長した点を学級等で共有する時間を確保していく。 ・学校行事出の努力や向上した点を共有する時間を引き続き設けていく。 ・様々な活動の中で、自分や友達のよさをお互いに知る機会を設けていく。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・ALTと連携し、学年の実態に応じ、外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、積極的に英語を使ってコミュニケーションをとろうとする態度を養う。 ・ALTとの給食や昼休みの交流を通して、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.2%，教職員は 100%で指標の 85%を上回った。ALTと連携してテンポよく外国語活動を行っているため、英語を使ったコミュニケーションがとれるようになってきている。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、学年に応じた基礎的な英単語や言い方について繰り返し練習をし、身に付けられるようにする。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・生活科や社会科、総合的な学習の時間において、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開する。 ・地域の情報を、学校だより等で発信することにより、地域の良さを実感できるような児童や保護者の地域活動を推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.2%と指標の 85%を上回った。また、保護者の肯定回答は 87.5%と昨年度 (65.0%) を上回るとともに、指標の 85%を上回った。社会や総合的な学習で取り組んだことを、保護者に伝えたことが理由になると思われる。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続しつつ、宇都宮学などの学習の様子について、学校だより等を活用し発信していく。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・児童の発達段階や、各教科等の学習の特色に応じた一人一台端末の効果的な活用を推進し、児童の情報活用能力の育成に努める。 ・情報教育担当や司書、学級担任が連携し、個人用パソコンや図書室等を活用した調べ学習や発展学習の充実を図る。 ・図書だよりによる啓発や読書週間における家庭と連携した取組など、学校図書館を核とした読書活動を推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.2%，教職員 100.0%であり指標の 85%を上回っている。タブレットが導入され授業等で積極的に活用してきた成果と思われる。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、タブレットのさらなる活用が図られるようにする。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・学校農園活動など、自然の大切さを実感させる教育活動に取り組む。 ・親子除草やクリーン活動・節電スイッチオフ運動・リサイクル活動など、学校内外の環境維持を意識させる教育活動に取り組む。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.1%であり、指標の 85%を上回った。教職員は 93.8%で昨年度 (82.4%) より上昇が見られるとともに指標の 85%を上回った。コロナ禍の中で再開した各行事が児童の中で浸透してきた成果と思われる。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、地域で推進している活動と学校の取組をつなげ、SDGS 等をより意識させるようにする。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・校内支援委員会や児童に関する情報交換会を通し、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図る。 ・適切な支援を行い、児童の活動をしっかりとみとめる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・日常的に関連情報を共有するほか、必要に応じて校内支援委員会を開催することで、児童に特徴に合った指導方法を学校全体で共有していく。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・全校体制で様々な機会を捉え、人権の尊重や「いじめは絶対に許されない」ことについて指導する。 ・子どもたちの様子を観察し、未然にいじめを防ぎ予防に努めるようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 100%、保護者の肯定的回答は 95.8%となり、指標の 85%を上回った。保護者の肯定的回答は昨年度は 83.3%であった。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・いじめゼロ強調月間やいじめアンケート、道徳の授業、児童様子の観察等を行い、引き続きいじめの未然防止に努めていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童、教職員の肯定的回答 85%以上	・職員会議の折の情報交換会等で学級の課題を取り上げ職員の共通理解を図るとともに、適宜、不登校対策委員会を開く。 ・友達の良いところをみつける活動等を行うなど、児童の良さや努力などを認める教育を推進する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 100%、教職員の肯定的回答も 100%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・日頃から児童の良い点や課題、適切な指導方法について共有するとともに、適宜ケース会議を開くなど、学校全体で歩調を合わせ指導していく。 ・児童のよさを見つけ、認める活動を継続していく。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。	・それぞれの児童が得意なことで活躍できる場面を設定する。 ・結果だけでなく過程（努力や準備）にも目を向け、機会を捉えて適切に	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 100%で、指標を上回った。教職員は児童一人一人を大切に、それぞれのよいところや努力

3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	児童に伝えるよう意識する。 ・学校行事など折に触れて振り返りの時間を設け、できたことについては必ず挙げるようにする。 ・保護者や地域には、学校で生き生きと活動する児童の様子を HP やメール配信、各種便り、回覧板等で積極的に発信する。		の過程に目を向け、見取ったことを児童に伝えるなどして自己肯定感を育て、児童は明るく充実した学校生活を送っている。 ・学校ホームページで児童の様子を積極的に発信し、各種便りにはホームページの QR コードを載せるなど、多くの人が目にするような工夫をした。地域住民の肯定的回答が 100%だったことも、その成果であると思われる。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・保護者の肯定的回答率が上がるよう、児童の活躍の場面や本人の良さなどについて保護者に伝えていく。
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・学習のねらいを明確にし、児童が考えの深まりを実感できるような学習のまとめや振り返りを意識した授業を組み立てる。 ・児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、児童一人一人の状況に応じたきめ細かな指導をする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 100%で、指標の 85%を上回った。授業のねらいを明確にし、児童一人一人の学習状況に応じた指導を行うことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き児童一人一人に応じた、きめ細かな指導に力を入れていく。 ・学年だより等で授業の様子を紹介するとともに、授業参観や学級懇談等で児童の学びについて伝えていく。
4-(2) チーム力の向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・個別指導、授業資料提供等において、市会任職等と教員が十分に連携を図りながら、質の高い教育活動を実践する。 ・管理職のマネジメント力向上を図ることで学校の組織力を強化し、同僚性を発揮して児童への指導・支援を充実する。 ・職員室前面のホワイトボードの活用や打合せ時間の確保など、共通理解を図る環境を整える。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度に引き続き 100%で、指標を上回った。養護教諭や学校栄養士の授業参画、学校図書館司書と図書館教育担当教諭が連携した読書活動の推進など、日常的に教職員相互の連携が図られ、質の高い教育活動が実践できている。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続することで、学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図る。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・学校司書業務、ALT、かがやき指導員、学校栄養士業務等が各種教育活動に参画することや、学校事務支援スタッフの有効活用により、教員が児童と向き合う時間を確保するとともに業務の軽減を図る。 ・PC を活用しての会議の効率化や、打合せ・会議の機会精選などの取組により、放課後の教材研究の時間を確保する。 ・学校行事の反省等、教育課程のふりかえりや意見を取りまとめ、職員会議で検討するなど、次年度以降の効率化につながる改善に取り組む。 ・学校徴収金システム、インターネットバンキング等を活用して、出納業務の効率化を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で、指標を上回った。各教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、チームで業務にあたったりすることが、業務の効率化を進め、教員の負担軽減や児童と向き合う時間の確保につながられた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、更に業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・小中一貫教育・地域学校園における各部・分科会での同歩調の取組を各種便り等で積極的に発信する。 ・鬼怒地域学校園のあいさつ運動等の行事を通し、児童・生徒交流を積極的に推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.1%, 保護者の肯定的回答は 87.5%で 7, 指標を上回っており、昨年度（児童 86.7%／保護者 76.5%）を大きく上回っている。中学生の職場体験や、中学校教員による乗り入れ授業、中学生とのあいさつ運動、地域学校園共通のお話給食、地域学校園合同親学講演会などの実施により、児童・保護者の認知度が高まっている。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育の取組について、趣旨の明確化を図るとともに、地域学校園で協力し情報発信に努めていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者、地域の肯定的回答 85%以上	・地域の方々や保護者との交流を深める教育活動を推進し、より効果的な方法で広く情報を発信する。 ・体験活動を促進することによる教育活動の充実を図るため、学校支援ボランティア等の活用を計画的に実施する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 87.5%, 地域は 100%で指標を上回った。今年度も小規模校の強みを生かし、地域行事への協力や参画を通して、家庭・地域と連携した教育活動を推進した。地域協議会の活動も定着・発展してきており、よりよい児童の育成に努められている。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者、教職員の肯定的回答 85%以上	・毎月の安全点検を確実に実施し、児童や利用者が安全に活用できる環境づくりに取り組む。 ・予算を効果的に活用し、破損箇所の修繕を計画的に行い、安全確保に努める。 ・保護者や利用者へ来校時の注意点の周知、危険箇所の表示、AED の活用、災害時避難方法、危機対応に関する情報を提供する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 91.7%, 教職員は 100%で指標を上回っており、昨年度（保護者 81.0%／教職員 94.1%）を大きく上回った。LRT 開業に伴う交通安全や構内への不審者侵入防止、熱中症予防等について学校危機管理マニュアルを改訂したり、安全管理について「さくら連絡網」を活用して保護者や地域住民に情報を発信したりしたことと成果と考えられる。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続し、更に児童・保護者はもちろん、学校を利用する全員の安全確保に努めていく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・各学年、各教科のデータを共有フォルダに格納し、教職員が共有できるようにする。 ・スクールタクト等を活用し、授業に役立つ動画や課題の共有を行うとともに、児童同士の意見交換や体験活動のまとめなどに 1 人 1 台端末を活用する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 93.8%で、指標の 85%を上回った。各学年や各教科の指導内容や資料等についてデータを共有することで、効率的に授業準備を行うことができた。また、スクールタクト等の使い方について教職員間で情報を共有し、授業の中で効果的に活用することができた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続するとともに、Google クラウドも効果的に活用できるように整備していく。また、Google やスクールタクト等様々なツールの効果的な使い分けについても情報を共有していく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童、保護者の肯定的回答 85%以上	・保護者や地域と連携し、「よい子のめあて」や月目標をもとに、決まりを守り、さわやかなあいさつができるようにする。 ・あいさつ強化週間の設定・児童会活動の活性化等を図り自発的にあいさつができる環境づくりをする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.1%、保護者の肯定的回答 81.5%となった。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・学校生活・登下校指導で、教職員から児童へ対しての積極的な挨拶を継続し、挨拶の習慣化を図っていく。 ・地域と連携したあいさつ運動が拡大するよう努める。
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・授業や行事等の開始時刻を守るよう全校体制で取り組む。 ・時と場にふさわしい言動をとれるよう指導する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.1%となり、指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。 ・授業中や給食・清掃などの日頃の活動で、きまりやマナーについて指導を継続して行っていく。
	B 3 児童は地域の人や保護者に見守られて安心して登下校している。 【数値指標】 児童、保護者・地域の肯定的回答 85%以上	・登下校時に教職員や保護者、地域防犯団体が連携して同行、見守りを実施する。 ・下校時の見守り活動の活性化を図るため、地域協議会や平石まち協の協力を得ながら、自治会への協力を要請する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 98%、保護者は 93.8%、地域は 92.6%とそれぞれ指標の 85%を上回った。教職員や保護者、地域の方々に見守られながら安全に登下校することができた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
	B 4 児童はよく考え、自分の意見を発表している。 【数値指標】 教員、児童の肯定的回答 85%以上	・学習の目的やねらいを明確にし、見通しをもって意欲的に取り組ませたり、児童が必然性を感じるような話し合いの場を設定したりして、個々の考えを深めるようにする。	B	【達成状況】 ・教員の肯定的回答は 100%、児童の肯定的回答は 96.1%で指標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、学習のねらいを明確にし、多様な学習形態を取り入れるなど、発表の機会を増やしていく。また、タブレットのみの意見共有とならないよう、直接発言する機会を確保していく。
	B 5 児童は、好き嫌いなく食事をしている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	・給食だよりを定期的に発行して食育についての意識を高めると共に、健康的な食事ができない児童に対して個別指導を行う。 ・栄養士、養護教諭の授業への参画を推進する。(学級活動)	B	【達成状況】 ・調理法の工夫や授業への参画、児童へのアンケートの実施により、児童の肯定的回答は 98%と指標を上回った。また、給食試食会の実施により、保護者の肯定的回答は 88.9%で、指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

25 ある質問項目のうち、数値指標を達成したのは24項目であった。昨年度は30項目中23項目であったことから、全体的に改善されたと考えられる。これは、教職員が知恵を出し合い、児童にとって何が大切かを一番に考え、学校行事等に関する方法等を模索しながら実施したり、児童一人一人を認め励まし、きめ細かに学習指導や児童指導に取り組んだりした結果、児童や保護者、地域に本校の取組が理解されたものと考えている。

唯一、B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の保護者の肯定的回答についてのみ、数値指標を下回った。以下に今後の方向性等について示す。

OB1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、児童の肯定的回答は94.1%であり、指標及び市の平均(91.8%)を上回った。一方で、保護者の肯定的回答は昨年度(81.8%)とほぼ変わらず81.5%であり、指標及び市の平均(83.9%)からは下回っている。児童は時と場に応じたあいさつをしていると認識しているが、保護者からは「自分から」「進んで」「相手の目を見て」「誰に対しても」「時と場に応じて」など、気持ちの良いあいさつができていないと捉えていると考えられる。今後は、学級や登下校指導等において継続指導するとともに、児童会活動等を通して自発的に児童主体のあいさつが習慣づくような環境づくりに努めていく。また、これまで以上に地域協議会・PTA・地域学校園内小中学校等と連携し、家庭や地域とともに、さわやかなあいさつの実践に努めていきたい。

その他の項目については指標を達成しているものの、次年度も今年度の取組を継続し、肯定的回答が100%に近づくよう、教職員一丸となって努力を続けていきたい。

7 学校関係者評価

地域協議会において評価の総括を行った。委員からは全体的に好意的な評価が示され、教職員が日々の教育活動に真摯に取り組んだ成果に対し、一定の評価が得られた。また、次の意見や感想が寄せられた。

- ・子供たちに明るい笑顔であいさつをしてもらおうと、こちらが「頑張ろう!」という気持ちになる。元気をもらっている。
- ・あいさつについては学校の指導も大切だが、家庭での教育も必要である。懇談会等で保護者等の機会に啓発を行うとよい。
- ・LRT 停留場に近いという特性を生かした学校活動PRができるとよいと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体としてよい評価をいただいた。学校の自己評価や児童・保護者・地域の皆様から寄せられた貴重な意見を真摯に受け止め、次年度の方策について検討していきたい。

○「あいさつ」については、学校・家庭・地域・地域学校園が連携し、これまで以上に気持ちのよいあいさつができる児童の育成を目指し、教科等の学びとも関連させながら、学校行事や児童会活動等を通して、気持ちのよいあいさつができるよう、実践していく。

- ・「いじめの未然防止」や「いじめに対する指導」については、これまでと同様に、一人一人の人権意識の涵養を目指し、全教職員で真摯に取り組んでいく。特に、一人一台端末（タブレット）が配備されたことにより、インターネットによるいじめが起こることも想定されることから、どのような形であっても、いじめが許されない行為であることはもとより、一人一人の人権を大切にすることの大切さ等を丁寧に指導することを通して、全ての児童が安全に、楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに努めていく。